

平成26年度 発達障害児者支援開発事業 報告書

就労前“集団参加体験”推進事業
～大人社会への離陸を支援する“アスール・ラボ・プロジェクトⅡ～

山口県健康福祉部障害者支援課

平成27年(2015年)5月

第I部 事業要旨

1 事業の背景、目的

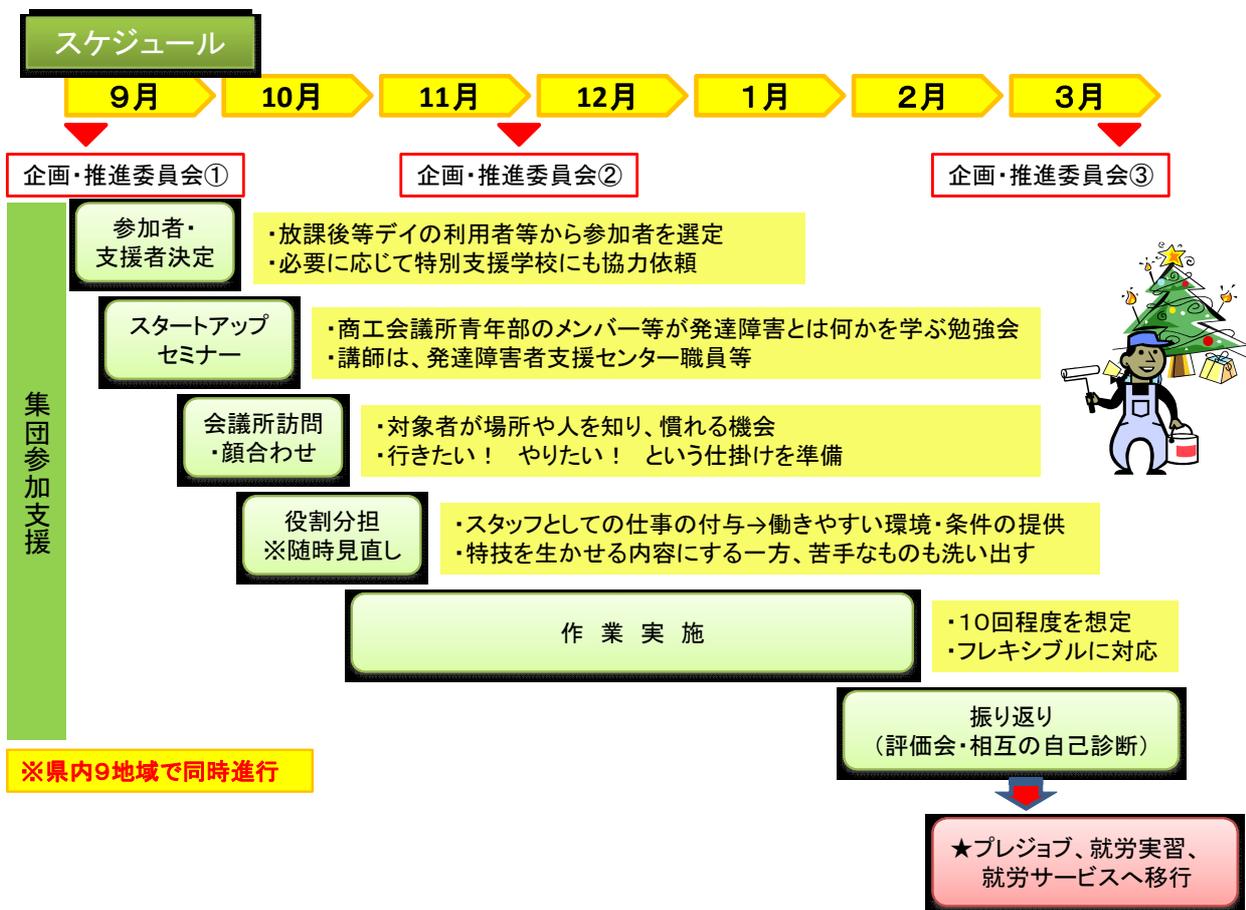
当事業は、発達障害者の就労支援のために必要な、『事業主や経営者に対する直接的な理解啓発のアプローチ』と、『発達障害者に対する集団参加機会の提供』を主たる目的として平成25年度からスタートした。

25年度は、体験事業や好評を博した普及啓発冊子『AZUL』の作成・配布等を通じて、一定の事業効果を認めることができたが、一方で、いくつかの課題も露わになった。

26年度は、前年度の取組の中で明らかになった課題等を踏まえてより効率的な事業実施体制を確保するとともに、事業効果の全県波及を狙って各障害保健福祉圏域毎（山口防府圏域は、山口市、防府市毎。25年度4地域→26年度9地域）に体験事業を実施することとし、併せて『体験を企画運営する支援者側の就労支援力の向上』を目的に加えるなど、バージョンアップを図っている。

2 事業の概要

25年度に引き続き、「商工会議所等が主催するイベントへのスタッフとしての参加」という形を採用した。



※企画・推進委員会②は未開催。

3 事業の実施状況

県内9地域での実施状況は下表のとおり。

圏域等	体験者数	体験回数	受入先の参加者数	主な受入先
岩 国	2名	8回	15名	岩国商工会議所
柳 井	2名	5回	13名	平生町商工会
周 南	3名	5回	61名	徳山商工会議所青年部
防 府	2名	9回	8名	防府商工会議所
山 口	3名	6回	60名	山口商工会議所青年部
宇 部	2名	5回	20名	(イベント実行委員会)
下 関	2名	7回	6名	下関商工会議所
長 門	2名	6回	18名	長門商工会議所青年部
萩	2名	6回	30名	萩商工会議所青年部
合 計	20名	57回	231名	

4 事業の評価、分析

◇評価、分析

評価者	内 容
本人 ・ 家族	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労に向けての意欲が増した。 ・ 他人と接することに以前より積極的になった。
受入先	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用についても、機会があれば協力したい。 ・ 一緒に作業することで発達障害児のことがよくわかる。
支援者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な雇用の相談もあり、成果が見えた。 ・ この取組を通じて、就労支援へのネットワークができた。
企画・ 推進委	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズは高いので、もっと多くの子ども達が参加できるように工夫を。 ・ 学習障害などの子ども達も参加できるようにして欲しい。

◇まとめ

- ・ 『事業主や経営者に対する直接的な理解啓発のアプローチ』、『発達障害者に対する集団参加機会の提供』及び『体験を企画運営する支援者側の就労支援力の向上』のいずれの目的にも一定の効果を認める。

第Ⅱ部 事業の実施内容

1 推進体制の整備

◇企画・推進委員会

モデル事業の実実施計画の策定、モデル事業の実施者の選定、モデル事業の評価・取りまとめ及び支援手法の開発を行うため、下記の構成員による「企画・推進委員会」を設置した。

区分	氏名	職業（役職）
委員長	松田 信夫	山口大学教育学部副学部長（障害児教育）
委員	田原 卓浩	たはらクリニック院長（小児科・内科）
〃	杉山 恵美子	山口県市町保健師研究協議会会員
〃	津田 隆志	山口県相談支援専門員協会会長
〃	緒方 昭一郎	山口障害者職業センター所長
〃	阿部 聡	NPO法人山口県自閉症協会親の会会長
〃	川間 弘子	NPO法人山口臨床発達支援センター理事長
〃	岩崎 泰経	山口県発達障害者支援センターまっぷセンター長
〃	徳永 雄	防府商工会議所専務理事
〃	田村 知津子	宇部総合支援学校校長（山口県特別支援学校校長会会長）
〃	岸田 あすか	NPO法人シンフォニーネット理事長 ※前発達障害者支援マネージャー

◇発達障害者支援マネージャー

モデル事業の進行管理、委員会とモデル事業の実施者との調整等を行うため、以下の者を「発達障害者支援マネージャー」に選任した。

氏名	岡村 隆弘
職業（役職）	（山口県発達障害者支援センターまっぷ主任）

◇モデル事業の実施者

第1回の企画・推進委員会（平成26年8月21日）で、以下の者を選定。
平成26年9月1日契約後、事業着手。

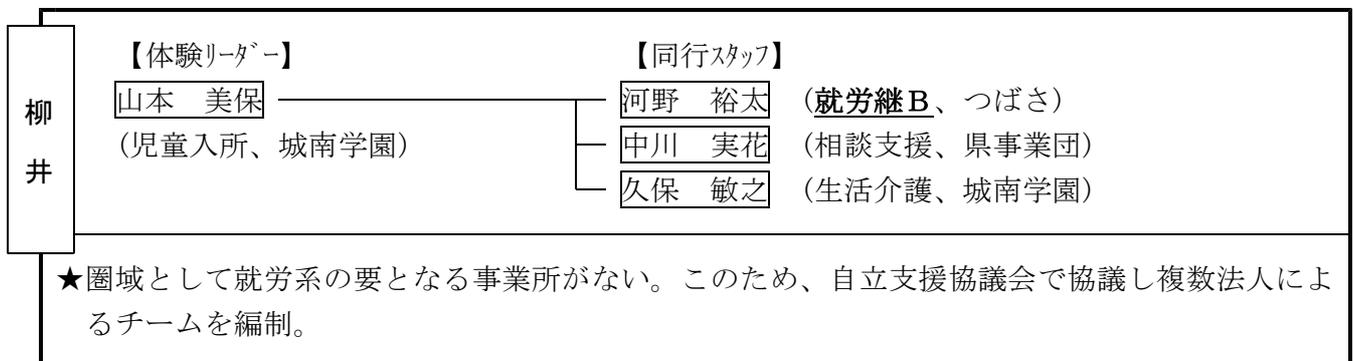
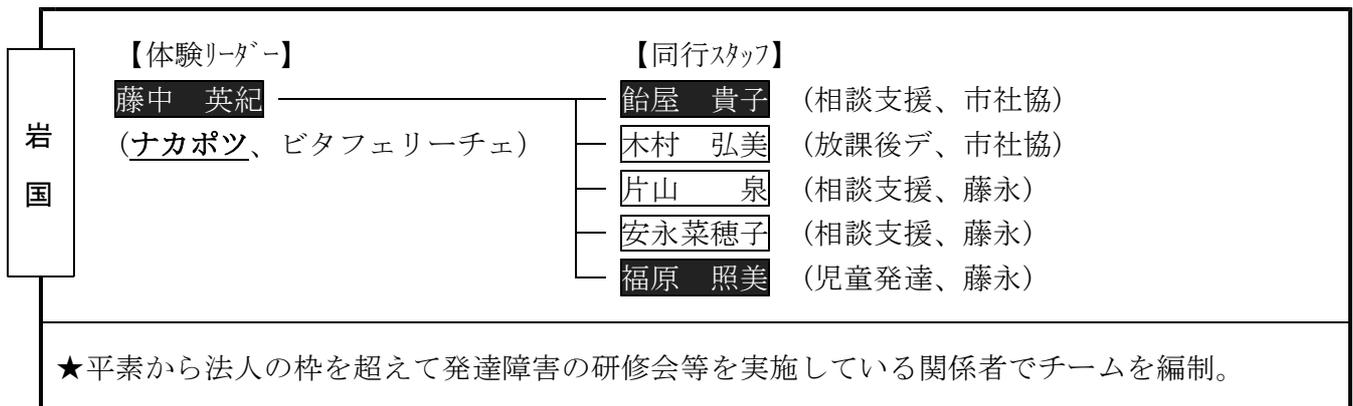
圏域等	法人名	主な選考理由
岩国	社会福祉法人ビタ・フェリーチェ	ナカポツセンターの経営母体であること
柳井	社会福祉法人城南学園	自立支援協議会からの推薦であること
周南	社会福祉法人大和福祉会	ナカポツセンターの経営母体であること

圏域等	法人名	主な選考理由
防府市	社会福祉法人心促協会	自立支援協議会からの推薦であること
山口市	NPO法人あくしゅ	ナカポツセンターの経営母体である社会福祉法人ほおのき会等との協議結果であること
宇部	社会福祉法人光荣会	ナカポツセンターの経営母体であること
下関	社会福祉法人下関市民生事業助成会	ナカポツセンターの経営母体であること
長門	社会福祉法人福祥会	長門市からの推薦であること
萩	社会福祉法人ふたば園	ナカポツセンターの経営母体であること

2 体験事業の実践

1 実施者（支援者）の体制確保について

※下線は就労系。白抜きは2年連続



周南	【体験リーダー】	【同行スタッフ】
	中村 忠俊 (ナカポツ、大和福祉会)	磯地 美香 (相談支援、大和福祉会) 松原 真史 (就労移行、大和福祉会)
★ナカポツの経営法人職員でチームを編制。		

防府市	【体験リーダー】	【同行スタッフ】
	先村 章竜 (就労移行、心促協会)	能野 伸治 (就労移行、心促協会) 樋田 貴弘 (就労継B、心促協会) 重原 慎弥 (就労継B、心促協会)
★自立支援協議会から推薦された法人職員でチームを編制。		

山口市	【体験リーダー】	【同行スタッフ】
	梅田 和平 (就労継B、ふしの学園)	三輪 治彦 (ナカポツ、ほおの木会) 松本 和也 (就労継B、ふれあいの家鴻の峯) 岡村 隆弘 (放課後デ、あくしゅ) 藤永 瞳 (放課後デ、あくしゅ) 空 美有紀 (放課後デ、あくしゅ) 乾 翔純 (放課後デ、あくしゅ)
★ナカポツの経営法人等との協議により、複数法人によるチームを編制。		

宇部	【体験リーダー】	【同行スタッフ】
	榎谷 紀幸 (ナカポツ、光栄会)	藤本 尚希 (ナカポツ、光栄会) 榎谷 紀幸 <兼務>
★ナカポツの経営法人職員でチームを編制。		

下関	【体験リーダー】	【同行スタッフ】
	樋口 芳子 (生活介護、市民生事業助成会)	佐野 賢次 (生活介護、市民生事業助成会) 西川久美子 (日中一時、市民生事業助成会)
★ナカポツの経営法人職員でチームを編制 (ただし、ナカポツ他就労系事業所の職員なし)。		

長門	【体験リーダー】	【同行スタッフ】
	村岡 章 (放課後デ、きらり)	稲田 愛 (放課後デ、きらり)
		中尾 英弘 (就労移行、福祥会)
		大谷江里子 (就労移行、福祥会)
★市から推薦された法人（就労移行事業所を運営）と「児童・家族の支援拠点」として育成中の法人との協働によりチームを編制。		

萩	【体験リーダー】	【同行スタッフ】
	山下 友宏 (相談支援、ふたば園)	吉見 浩子 (ナカポツ、ふたば園)
		磯部しげみ (放課後デ、ふたば園)
		桑原 恵 (就労継B、ふたば園)
		松浦 百夏 (生活介護、ふたば園)
		渡邊 圭一 (相談支援、ふたば園)
★ナカポツの経営法人職員でチームを編制。		

2 受入れ先の確保について

圏域等	受入先／【主要イベント】
岩国	○バイいわくにキャンペーン推進協議会（岩国商工会議所） 【バイいわくにキャンペーン】 ○ツール・ド・ゆう実行委員会（岩国西商工会） 【ツール・ド・ゆう】
柳井	○ひらお産業まつり実行委員会（平生町商工会） 【ひらお産業まつり】
周南	○よさこいぶち楽市民祭実行委員会（徳山商工会議所青年部） 【よさこいぶち楽市民祭】 ○徳山商工会議所青年部 【周南冬のツリーまつりーファンタジックナイト】
防府	○ロマンチック防府（任意団体） 【ロマンチックナイト in 防府】 ○防府商工会議所内まちづくり防府 【鍋ー1 グランプリ】

圏域等	受入先／【主要イベント】
山口	○山口商工会議所青年部 【12月、山口市はクリスマス市になる。ー山口ワールドクリスマスマーケットほか】
宇部	○はぁ〜と of ふれんず障害者の祭典実行委員会（光栄会） 【はぁ〜と of ふれんず障害者の祭典】
下関	○下関さかな祭実行委員会（下関商工会議所） 【下関さかな祭】 ○下関長府ライオンズクラブ 【ライオンズクラブ50周年記念事業（紫陽花の植樹イベント）】
長門	○ちびなが商店街実行委員会（長門商工会議所青年部） 【ちびなが10ーちびなが商店街をつくろう】
萩	○NPO法人萩市民活動ねっとまちづくりの会 【秋の収穫祭&ハロウィン with 結まつり 2014】 ○萩商工会議所青年部 【萩産業フェスタ】

3 体験者の確保について

圏域等	氏名※白抜きは2年連続（性別）／学年等／診断名等
岩国	Aさん（女性）／〇〇総合支援学校高等部1年／知的障害、自閉傾向、突発性側弯症 Bさん（女性）／〇〇総合支援学校中学部3年／自閉症 ★〇〇総合支援学校からの推薦。支援者側との面識なし。
柳井	Cさん（男性）／〇〇総合支援学校高等部1年／自閉症 Dさん（女性）／〇〇総合支援学校中学部3年／自閉症 ★〇〇総合支援学校の協力で候補者をピックアップし、支援者側で選定。面識なし。
周南	Eさん（男性）／就労移行利用者(19歳)／知的障害、自閉症 Fさん（男性）／〇〇総合支援学校高等部1年／知的障害、自閉症 Gさん（男性）／〇〇総合支援学校高等部1年／知的障害、ADHD ※途中まで ★各総合支援学校の協力で候補者をピックアップし、支援者側で選定。面識あり。
防府	Hさん（男性）／就労継続利用者(19歳)／広汎性発達障害、統合失調症 Iさん（男性）／〇〇中学校1年／高機能自閉症 ★利用者や支援者の知人から選定。面識あり。

圏域等	氏 名※白抜きは2年連続（性別） / 学年等 / 診断名等
山口	Jさん（男性） / ○○大学4年生 / 自閉症、ADHD Kさん （男性） / ○○総合支援学校中学部2年 / 知的障害、自閉症 Lさん（女性） / ○○総合支援学校中学部1年 / 自閉症 ★利用者から選定。面識あり。
宇部	Mさん（男性） / ○○総合支援学校中学部3年 / 発達障害 Nさん（男性） / ○○総合支援学校中学部1年 / 知的障害、自閉症 ★法人内他事業所や近隣事業所の利用者から選定。面識なし。
下関	Oさん（男性） / ○○総合支援学校高等部3年 / 知的障害、自閉症 Pさん（男性） / ○○総合支援学校高等部1年 / 知的障害、自閉症 ★利用者から選定。面識あり。
長門	Rさん（男性） / ○○総合支援学校中学部2年 / 知的障害、自閉症 Sさん（男性） / ○○中学校1年 / アスペルガー症候群 ★親の会に人選を依頼し選定。面識なし。
萩	Tさん（女性） / ○○総合支援学校高等部1年 / 広汎性発達障害 Uさん （男性） / ○○総合支援学校中学部3年 / 知的障害、自閉症 ★利用者から選定。面識あり。

4 作業日数及び作業内容の確保について

圏域等	日 付	事 業 内 容
岩国	H26. 10. 24(金)	支援者・体験者顔合わせ&事業説明
	H26. 10. 24(金)	岩国西商工会との調整（イベント内容、作業内容等の確認）
	H26. 10. 29(木)	岩国商工会議所との調整（イベント内容、作業内容等の確認）
	H26. 10. 31(金)	◎スタートアップセミナー for 岩国西商工会 【体験①：受入先への挨拶】
	H26. 11. 10(月)	岩国西商工会との調整（作業内容等の確認）
	H26. 11. 11(火)	【体験②：作業内容の確認、支援方法の調整等】

圏域等	日 付	事 業 内 容
岩 国	H26. 11. 12(水)	【体験③：ツール・ド・ゆう応援グッズ等の作成】
	H26. 11. 13(木)	両イベント会場の作業場所、駐車場、昼食会場等の確認
	H26. 11. 16(日)	【体験④：バイ岩国キャンペーンでのチラシ&記念品配布】
	H26. 11. 16(日)	【体験⑤：イベント会場での買い物体験、岩国商工会議所振返り等】
	H26. 11. 22(土)	【体験⑥：ツール・ド・ゆう会場準備（のぼり、みかん販売所設置）】
	H26. 11. 23(日)	【体験⑦：ツール・ド・ゆう会場でのグッズ販売、選手応援等】
	H26. 12. 3(水)	岩国西商工会振返り
	H26. 12. 4(木)	【体験⑧：外食体験&振返り】

圏域等	日 付	事 業 内 容
柳 井	H26. 10. 6(月)	支援者・体験者顔合わせ&事業説明
	H26. 10. 20(月)	平生町商工会との調整（セミナーの準備、体験者の理解面の確認）
	H26. 10. 20(月)	◎スタートアップセミナー for 平生町商工会
	H26. 10. 20(月)	【体験①：受入先への挨拶】
	H26. 11. 1(土)	【体験②：イベント会場までの移動練習】
	H26. 11. 19(水)	【体験③：作業手順の確認、練習】
	H26. 11. 22(土)	【体験④：ひらお産業まつり会場でのスタンプ係等補助】
	H26. 12. 3(水)	【体験⑤：振返り（感想の発表）】

圏域等	日付	事業内容
周南	H26. 10. 7(火)	支援者・体験者顔合わせ&事業（作業）説明
	H26. 10. 9(木)	◎スタートアップセミナー for 徳山商工会議所青年部
	H26. 10. 11(土)	【体験①： <u>ポスター配布（依頼）&貼付け</u> 】
	H26. 11. 8(土)	【体験②： <u>受入先（よさこい）への挨拶&作業打ち合わせ</u> 】
	H26. 11. 9(日)	【体験③： <u>よさこいぶち楽市民祭会場での給水&チラシ配布</u> 】
	H26. 12. 12(金)	【体験④： <u>受入先（商議所）への挨拶&作業打ち合わせ</u> 】
	H26. 12. 23(火)	【体験⑤： <u>ファンタジックナイト会場でのお菓子配布&記念撮影</u> 】

圏域等	日付	事業内容
防府	H26. 11. 12(水)	◎スタートアップセミナー for ロマンチック防府
	H26. 11. 28(金)	【体験①： <u>受入先への挨拶&ドラマチックナイト in 防府会場準備</u> 】
	H26. 12. 3(水)	【体験②： <u>ドラマチックナイト in 防府で使用する飾りの作成作業</u> 】
	H26. 12. 10(水)	【体験③： <u>ドラマチックナイト in 防府で使用する飾りの作成&配置</u> 】
	H26. 12. 20(土)	【体験④： <u>ドラマチックナイト（BMX大会）会場の設営&片付け</u> 】
	H26. 12. 22(月)	【体験⑤： <u>ドラマチックナイト in 防府で使用する飾りの作成&配置②</u> 】
	H27. 1. 12(月)	【体験⑥： <u>ドラマチックナイト in 防府の後片付け</u> 】
	H27. 1. 24(土)	【体験⑦： <u>鍋ー1グランプリで使用する看板作成、投票箱設置等</u> 】
	H27. 2. 1(日)	【体験⑧： <u>鍋ー1グランプリ会場での清掃、呼び込み、投票呼びかけ</u> 】
	H27. 3. 15(日)	【体験⑨： <u>向島小学校の寒桜鑑イベントでの販売補助等</u> 】

圏域等	日付	事業内容
山口	H26. 10. 8(水)	支援者事前打ち合わせ
	H26. 10. 30(木)	体験者の事前評価
	H26. 11. 4(火)	【体験①： <u>受入先への挨拶</u> 】
	H26. 11. 15(土)	【体験②： <u>クリスマスイルミネーションの設置</u> 】
	H26. 12. 13(土)	【体験③： <u>ワールドクリスマスマーケット会場での販売補助</u> 】
	H26. 12. 14(日)	【体験④： <u>ワールドクリスマスマーケット会場での販売補助②</u> 】
	H27. 1. 10(土)	【体験⑤： <u>クリスマスイルミネーションの撤去</u> 】
	H27. 2. 3(火)	【体験⑥： <u>振返り（感想の発表）</u> 】
	H27. 2. 27(金)	支援者振返り

圏域等	日付	事業内容
宇部	H26. 9. 19(金)	【体験①： <u>受入先への挨拶</u> 】
	H26. 10. 3(金)	【体験②： <u>会議の資料配付、作業手順の確認①</u> 】
	H26. 10. 17(金)	【体験③： <u>会議の資料配付、作業手順の確認②</u> 】
	H26. 10. 18(土)	【体験④： <u>はぁ〜と of ふれんず会場の準備（テント建て等）</u> 】
	H26. 10. 19(日)	【体験⑤： <u>はぁ〜と of ふれんず会場での販売ブースの呼び込み等</u> 】

圏域等	日付	事業内容
下関	H26. 10. 14(火)	下関商工会議所への事業説明
	H26. 10. 15(水)	下関長府ライオンズクラブへの事業説明
	H26. 10. 23(木)	◎スタートアップセミナー for 下関長府ライオンズクラブ

圏域等	日 付	事 業 内 容
下 関	H26. 11. 11(火)	◎スタートアップセミナー for 下関商工会議所
	H26. 11. 14(金)	【体験①：受入先（商議所）への挨拶&イベント会場下見】
	H26. 11. 20(木)	【体験②：受入先（ライオンズ）への挨拶】
	H26. 11. 23(日)	【体験③：下関さかな祭会場でのお菓子配布】
	H26. 12. 1(月)	【体験④：植樹作業手順の確認】
	H26. 12. 5(金)	【体験⑤：下関さかな祭の振返り（感想の発表）】
	H27. 2. 8(日)	【体験⑥：植樹作業】
	H27. 3. 5(木)	【体験⑦：植樹作業の振返り（感想の発表）】

圏域等	日 付	事 業 内 容
長 門	H26. 10. 16(木)	保護者への事前説明
	H26. 10. 24(金)	長門商工会議所青年部との顔合わせ&調整
	H26. 11. 17(月)	【体験①：自己紹介の練習&イベントのイメージを掴む】
	H26. 11. 27(木)	【体験②：イベントで使用するグッズを作成する練習】
	H26. 12. 9(火)	【体験③：イベントで使用するグッズを活用した練習】
	H26. 12. 18(木)	◎スタートアップセミナー for 長門商工会議所青年部
	H27. 1. 29(木)	【体験④：イベントで使用するグッズの作成】
	H27. 1. 31(土)	【体験⑤：イベント会場の設営（のぼりを立てる等）】
	H27. 2. 1(日)	【体験⑥：イベント会場の撤去（のぼりを撤収する等）&振返り】

圏域等	日付	事業内容
萩	H26. 10. 4(土)	体験者（藤田）への事業説明と特性把握
	H26. 10. 17(金)	体験者（伊藤）への事業説明と特性把握
	H26. 10. 21(火)	【体験①：ハロウィンイベントのチラシの修正と折込み】
	H26. 10. 22(水)	【体験②：ハロウィンイベントの会場設営（飾付け）】
	H26. 10. 25(土)	【体験③：ハロウィンイベントでのチラシ配り】
	H26. 10. 30(木)	【体験④：産業フェスタで使用するお菓子の袋詰め】
	H26. 11. 1(土)	【体験⑤：産業フェスタ会場の準備（シート敷き、物品搬入）】
	H26. 11. 2(日)	【体験⑥：産業フェスタ会場でのパンフレット配り】
	H27. 1. 14(水)	振返り

※アンダーライン部分が受入先との協働作業

5 体験者と受入側とのコミュニケーションについて

◇体験者の特性把握

岩国	<u>事前に面識がなかった</u> ので、事業説明等の機会を使った特性把握に務めた。顔出し・名前出しがNGであるなど、保護者の微妙な心情もあるので、受入先への伝え方も注意した。
柳井	<u>事前に面識がなかった</u> ので、事業説明等の機会を使った特性把握に務めた。また体験事業を通じて理解できる部分も多かった。
周南	事前に面識があり、ある程度特性を掴んでいた。
防府	事前に面識があり、ある程度特性を掴んでいた。
山口	事前に面識があり、ある程度特性を掴んでいた。

宇部	<u>事前に面識がなかった</u> ので、体験者の利用施設に出向き、本人同席の上で職員から情報を得た。また、保護者からも聞き取りを行った。
下関	事前に面識があり、ある程度特性を掴んでいた。
長門	<u>事前に面識がなかった</u> ので、受入先との共同作業に入る前に支援者との作業を複数回設け、関係づくりにも務めた。
萩	事前に面識があり、ある程度特性を掴んでいた。

◇受入先と体験者とのコミュニケーション

岩国	スタートアップセミナーで体験者の特性や留意点を伝えた。体験時は、支援者が間に入る形となったが、絵カード等を用いて受発信している様子は側で見てもらっている。
柳井	スタートアップセミナーで体験者の特性や留意点を伝えた。口頭でのコミュニケーションもでき、受入先の方の明るさもあって、特別な手立て無くやりとりできた。
周南	スタートアップセミナーで体験者の特性や留意点（話は短く等）を伝えた。受入先の理解や本人の頑張りもあり、コミュニケーションは問題なかった。
防府	スタートアップセミナーで体験者の特性や留意点を伝えた。機能の高い子達で口答指示も入るので、可能な限り直接本人へ指示をしてもらうように配慮した。
山口	2年目なのでスタートアップセミナーは開催せず、最初の挨拶時に自己紹介カードで特性を伝えた。受入先（コーナーの担当者のみだが）が積極的に声かけをしてくれた。
宇部	事業開始からイベントまでの期間が短く、スタートアップセミナーは開けなかった。受入企業からは、 <u>予め障害特性等を勉強したかったとの要望</u> が事後評価でなされた。
下関	2箇所の受入先それぞれにスタートアップセミナーを開催し体験者の特性や留意点を伝えた。受入先が想像以上に丁寧に説明をしてくださり、助かった。
長門	スタートアップセミナーで体験者の作業の様子を動画で照会するなど、工夫を行ったが、 <u>受入先との共同作業自体があまり確保できなかった</u> 。
萩	事業開始からイベントまでの期間が短く、スタートアップセミナーは開けなかったが、自己紹介カード等で細かく特性等は伝えた。 <u>受入先とのふれあいは人による部分があった</u> 。

6 体験事業終了後の評価とフォローアップについて

◇本人・家族（体験者側）の評価

岩国	<p>【本人】一人よりも<u>みんなで活動する方が、とってもいいな</u>と思いました。</p> <p>【家族】本人の特性理解に繋がった。（普通高校進学ではなく特別支援学校高等部かな？）</p>
柳井	<p>【家族】子供達が参加したことで、発達障害への興味・理解が深まればこれほど幸せなことはありません。</p>
周南	<p>【家族】本人の「バイトがしてみた」「支援者の人にこれからも相談したい」「ありがとうと言ってもらえて嬉しかった」等の感想を聞き、<u>とても良い刺激になった</u>と思う。</p>
防府	<p>【家族】受け入れてもらえる場所があることで心が穏やかになり、<u>意欲的にもなった</u>。</p> <p>【家族】体験の後は、楽しそうにいろんな話をしてくれた。</p>
山口	<p>【家族】子どもが家に帰ってきた時、「楽しかった」という言葉が多かった。</p> <p>【家族】不慣れな場所での作業の前は緊張が強く、一旦家で休憩してから再び出掛けた。</p>
宇部	<p>【家族】楽しそうに参加していた。</p> <p>【家族】社会に出た時に、少しは役に立つのではないかと思います。</p>
下関	<p>【家族】大きなイベントを楽しみながら参加できたことは、大きな自信に繋がったことと思います。</p>
長門	<p>【家族】家族としては、もっとたくさんの作業を期待していたが、<u>本人は初めて学校以外でのイベント準備等に関わったことに達成感を感じている様子</u>。</p>
萩	<p>【家族】知り合いの人と接することにより積極的になった。</p> <p>【家族】前回の経験を生かせた。本人の自信にも繋がると思います。</p>

◇事業主等（受入れ側）の評価

岩国	<p>アンケートに回答した11名中9名が、「御社での雇用に関する取組み」について「事業前と比べると、積極的に捉えるようになった。<u>機会があれば協力したい。</u>」を選択。</p>
柳井	<p>「27年度は、県事業の有無に関わらず、年度当初から<u>商工会のイベントには参加して欲しい。</u>」との誘いがあった。</p>
周南	<p>「<u>具体的な障害者雇用に関する情報収集をされる会社もあった</u>（ジョブコーチ等）。」</p>

防府	「事業開始前に比べると、印象は良くなった。」との感想あり。
山口	未だ「資格職だから」「肉体労働だから」等を理由に自社での雇用には消極的なところもあるが、昨年度に比べると「機会があれば自社での雇用に協力したい」という所も増えた。
宇部	「体験前に比べれば、発達障害に関する理解が深まっている。」との評価があった。
下関	「何か我々が努力することで光が見えることがあれば良いと感じた。」との感想あり。
長門	アンケートに回答した6名中4名が、「体験期間中1度も会話や作業を共にしなかった。」と回答。「 <u>事業主ではなく若手後継者への働きかけでは即効性はない。</u> 」との声も。
萩	「一緒に作業することで発達障害児のことがよく分かる。多くの青年部会員が理解を深めるよい機会である。」との感想あり。

◇支援者側の評価

岩国	<ul style="list-style-type: none"> ・親御さんのお子さんの進学に関する考えを変えるきっかけになったことは凄い効果。 ・<u>上関町のある企業から発達障害者を雇用したい旨の問合せがあり、現在調整中。</u> ・ナカポツとしても、地域の企業と顔見知りになれ、プラスになった。
柳井	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と繋がるよいきっかけとなった。 ・<u>27年度は自立支援協議会でプロジェクトチームを結成して取り組むこととした。</u>
周南	<ul style="list-style-type: none"> ・普段独り言が多い子が、会議中黙って我慢していたり、メモを取り出したりと、普通の事業所等の中では見ることができない姿を見せてくれ、<u>“外”での体験の重要性を知った。</u> ・高校一年生が「バイトをしてみたい」と言い出したことには驚いた。相談を継続する。
防府	<ul style="list-style-type: none"> ・普段事業所ではあまり積極的な姿が見られないが、<u>地域での体験</u>はとても楽しいらしく、「次はいつ？」と聞いてくるようになった。<u>動機付けにはとても良い機会</u>だと感じた。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・クローズで一般就労したいと言っていた体験者が、ナカポツに相談に来て、<u>職業センターの職業評価を受けるまでに至ったのはこの事業のよい面だ。</u> ・発達障害者を支援する経験が少なかったが、少し自信になった。
宇部	<ul style="list-style-type: none"> ・受入先の企業に理解が深まったことはよい。

下 関	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持っている人と受入先の人と接することで、お互いの距離が近くなった。 ・地域にどのような団体があるのかあまり知らなかったが、繋がりが少し持てた。
長 門	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援の事業所として、地域で発達障害者を支援している事業所と連携を取りながら事業を展開できたことは、<u>支援スキルを学ぶ点で非常に意義があった</u>。また、これまで関係が薄かった商工会議所とも連携の重要性を感じた。
萩	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>支援ツールの作成など支援の実践を体験したことがプラス</u>になった。就労支援における関係機関の連携の重要性を学ぶことができた。

第Ⅲ部 新たな支援手法の提案にかえて（分析・考察）

2年目の事業が終了した。県下9圏域等で20名の体験者と39名の支援者、そして14の受入組織の協力を得て体験事業に取り組んだ。関与した3つの立場の者全てにプラスの効果があるようお願いしながら進捗を見守ってきたが、今年度も“やってよかった”という声が多所から聞こえてきたことは救いである。

ここでは、更なる事業効果の発現を狙い、昨年度の取組を通じて得られた改善のポイントを評価の軸に置いて、今年度の事業を振り返り、課題や改善点を抽出することで、新たな支援手法の提案（マニュアルの作成）にかえることとする。

1 実施者の体制確保について

〈前年度の改善のポイント〉

- 事業の推進体制（地区リーダー役及び同行者役）は、施設や事業所の職員等にチームとして対応してもらえれば、事業の趣旨等に関する共通認識を取りやすく、日程調整もスムーズ。
- 「障害者就業・生活支援センター」等の就労支援系の事業所を運営している法人に引き受けて貰うと、発達障害者の特性に合わせた作業の切り分けや作業環境の整備等の勉強にもなり、学校や経済団体等とのコネクション強化にもなるので理想的。業務が多岐に亘るため、特に地区リーダー役は、ボランティアではなく業務として取り組める人が望ましい。一定の裁量を与えれば、より積極的に取り組んでもらえる可能性がある。

26年度は、事業目的に「発達障害者の支援者側の就労支援力の向上」を加え、委託契約先としてナカポツセンター等の就労系事業所を運営する法人を中心に選定した。

実施体制は、委託先法人での完結型（周南、防府、宇部、下関及び萩）と複数法人の連携型（岩国、柳井、山口及び長門）の2つのパターンに分かれた。これは、委託先法人や地域の実情に応じての結果であるが、情報伝達の円滑さでは、やはり前者が優位性があるといえる（後者はスタッフが打ち合わせる日程調整だけでも時間を要する）。ただし、この事業が地域の連携体制構築のきっかけや促進策となっているという後者の効果も看過すべきではない。

一方、完結型、連携型に関わらず、就労系事業所が関与しているケースでは、具体的な雇用の話が進んでいたり（岩国）、職業評価に繋がったり（山口）と目に見えた効果が発現した。

発達障害者支援に関する経験の少ない事業所もあるが、支援経験の豊富な障害児支援事業所等と就労系事業所との連携により、効果の高い取組が展開されると思料する。

〈今後に向けて〉

- より具体的・短期的な事業効果を発揮させるには、就労系の事業所の関与は必須！
- 就労系事業所の関与は、体験者が中学生や高校生（1，2年生）の場合であっても、早い段階から将来に向けてのアドバイス等もでき、有効。
- ただし、発達障害児（者）支援の経験豊富な事業所との連携で。

2 受入れ先の確保について

〈前年度の改善のポイント〉

- イベントの中身も大切だが、主催者の体制をより重視した方が良い。ある程度固定メンバーで体験を継続的に受け入れてもらえる団体の方が、意思疎通が容易であるだけでなく、体験者の安心感も高く、受入側の“学び”の効果も高い（商工会議所青年部、青年会議所等）。
- 県単位の連合組織があれば、各会議所等に話をする前にお断りをしておく方が、各会議所等も話を聞きやすいとのこと。
- 事業を外部に委託する場合でも、協力依頼には行政の担当者の同行が効果的。

受入れ先の選定については、各圏域等ごとに委託先を分け、裁量を与えたことで、ライオンズクラブから任意団体まで、様々な団体の参画を得ることができた。

25年度の反省で意思疎通の難しさから実行委員会形式の組織よりも、固定的なメンバーで受入れて貰える組織を選定することを周知していた。結果的には実行委員会形式の組織を選んだところが多かったが、各体験リーダーには事務局となる商工会議所等との連携を密にとりながら、支障のないように体験事業を進めてもらった。

常時13名程度の固定メンバー（平生町商工会）で受入れて貰えた柳井などは、受入れ先の学習効果は高かったかと考えられる。27年度以降もイベントへの参加を呼びかけられたことは、発達障害の理解啓発を図っていく上で今後も大きなチャンスを与えられたものである。

一方、体験の内容から受入れ先のメンバーがその都度入れ替わるような組織を選定した地域もあったが、理解促進効果も“広く浅く”なり、体験者側にストレスをかけたことも推察される。

〈今後に向けて〉

- 10名前後の固定メンバーでの受入を目指し、それが不可能な場合にも、受入側にキーパーソンを設け、入れ替わるメンバーへのつなぎや作業内容の提案・確認等をお願いすることが望ましい。

3 体験者の確保について

〈前年度の改善のポイント〉

- 地区リーダーや同行ボランティアと予め面識がある方の中から体験者を確保することが理想的。初対面の大人達の中に子ども達を託す上で、推進体制側に信頼関係のある人物がいることが、体験者側にとって何よりの安心材料となる。
- プライバシーの確保を前提にしておけば、幅広く体験希望者を募ることは可能と史料。（こども達のことをもっと知って欲しいという家族の潜在的なニーズはある。）
- 体験の具体的な中身や同行者、スケジュール等の情報は、わかった時点でできるだけ早めにお伝えすることが重要。

体験を実施した9圏域等のうち、4圏域について支援者側と体験者との事前の面識がない状態でスタートしたが、特に長門については、体験開始までの時間が長かったこともあり、支援者と体験者だけで過ごす機会を複数回設け、双方が安心して体験に臨めるように工夫をされたことは良かった。

今回は、「顔出し、名前出し」を条件に付さなかったことで、体験者の確保は昨年度に比べればスムーズだったという印象がある。（実際、今回の体験者の中には、名前出しも限定的にするよう要請のある方（保護者）もある。）

また、学校（総合支援学校）の協力については、体験者の選定までしてくれた所や、選定はできないまでも対象となるような生徒の情報を提供してくれた所もあり、協力を求めれば可能な範囲で答えてくれることが分かった。

なお、協力を依頼する際には、『AZUL』が役に立つところがあった。

〈今後に向けて〉

- 体験者・支援者双方が安心して体験に臨めるよう、事前の面識の有無に関わらず、可能な限りお互いを理解し合える機会を創って体験に移ることが望ましい。

4 作業日数及び作業内容の確保について

〈前年度の改善のポイント〉

- 作業時間や場所等の情報は、受入れ側への協力打診の際に確認しておくことが望ましい。受入れに了解をいただいた後になって、具体的な作業が僅かしか確保できないということがわかって断りづらい。
- イベントの準備はフレキシブルなものが多いので、体験計画は「変更の予定がある。」ことを事前に体験者にインプットしていくことが重要。
- 体験者の特技や、好きなこと、できることを事前に把握しておき、それらを活かせる作業を、“イベント全体の中での重要度や見た目、作業量等に捕らわれることなく”切り取って体験させてもらうことが重要。何が達成感に繋がるかを念頭に！
- ただし、作業内容に固執するとなかなか体験計画が作成できない場合もある。その場合には、作業で得られる達成感よりも、集団参加に必要なコミュニケーションスキルを磨くことによる達成感を重視し、「挨拶をしよう」「終わりました・分かりません等の“報・連・相”が出来ようになろう」等の具体的な目標を設定してトライする機会を設けてもよい。参加する意義が明確であれば、短時間であっても体験者側の理解が得やすく、受入れ側との触れ合いの機会も増え、体験計画が充実する。
- はじめて経験する作業、場所等があれば、予行演習や視察を行うことも一つの体験として有効。
- それぞれの体験が「目標→実践→評価」のサイクルに乗せられるよう、体系的な計画を作成することが重要。

「些細な事のようにも、目的を設定して行えば効果的なものとなる」という点では、受入先に挨拶に行く日を設けたり、終了後に感想を述べる日を設けていたりすることで、コミュニケーションの機会を確保するよう取り組んでいる圏域等がいくつかあったのは、反省を活かした取組であると考えられる。

また、「事前に会場の下見をする」「公共交通機関を使ってみる」「グッズを作る練習をする」「作業終了後のご褒美を兼ねて買い物体験をする」等の取組は、体験リーダーの工夫が見られたところである。

「特技を活かす」という点では、「得意な計算を活かした（柳井・Dさん）」、「手先の器用さを誉められた（防府・Hさん）」等の報告もあり、少しずつ体験者に見合った作業とのマッチングが可能になってきていることを今後に期待させるものである。

一方、圏域等によって体験の回数に偏り（5回～9回）があることは、改善すべき点である。

〈今後に向けて〉

- 体験者の“達成感”を最大のテーマにしつつ、可能な限り10回程度の体験を確保する。
- 可能な限りイベント全体の作業を把握し、その中から特技を活かせる作業を切り出すことを心がける（受入先にキーパーソンを見出すことが重要《再掲》）。

5 体験者と受入側とのコミュニケーションについて

〈前年度の改善のポイント〉

- 体験者の特性を十分に把握しておくこと。そして事前のセミナー時にロールプレイ等でその特性を踏まえた「視覚支援」や「構造化」による支援を体験しておくことも有効。
- 各作業日毎に、受入側にも「作業の指示をしてみよう」「構造化の支援を体験してみよう」等の目標を定めて取り組んでもらう等、具体的な仕掛けが必要。

受入先の組織は皆忙しく、スタートアップセミナーも定例会議等を機会に時間を割いてもらって開催するといった状況の中で、受入先の事前準備をしてもらうことはなかなか難しかった（**事業着手が9月からという当事業の欠点**でもある）。

今年度も体験者のコミュニケーション能力の高さに依存していた部分が大きかったが、それでも、支援者側には極力体験者と受入側との“直接的なふれあいの機会”を創出するよう意識してもらい、支援者が視覚支援を行っている様子を横で見ってもらう等により、特性理解の効果を確保した。

受入が2年目になる萩商工会議所青年部では、昨年度の経験から、自ら会議室のホワイトボードに作業手順や配置図等を書いて準備してくれていた目もあり、視覚支援の必要性が伝わっていることに事業の手応えを感じた。

〈今後に向けて〉

- 体験者の“達成感”を最大のテーマにしつつ、可能な限り10回程度の体験を確保する。
- 可能な限りイベント全体の作業を把握し、その中から特技を活かせる作業を切り出すことを心がける（受入先にキーパーソンを見出すことが重要《再掲》）。

6 体験事業終了後の評価とフォローアップについて

〈前年度の改善のポイント〉

- 継続的な取り組みに繋げていくためには、「振り返り」の場は不可欠。
- 体験者側については、「ペアレント・メンター」がフォローに関われるようになれば理想的。

○受入れ側については、代表者や主な役員だけでも構わないので、直接言葉を交わす機会を設けることが重要。

★継続的な取組みの中で受入れ側の意識の変化を促し、これによってイベント準備の方法自体が少しずつ変化し、準備全ての過程が発達障害のある方にも対応可能なものとなるよう働きかけることが重要（予めスケジュール化される、マニュアルが作成されるetc）

殆どの圏域等で受入先を交えた振返りが行えたことは、昨年度の反省を活かしたところである。

26年度は、ナカポツ等を絡めたことにより、当事業終了後も雇用の相談や職業評価等へと繋がることができた。

受入先の事後評価で、「御社での雇用に関する取組み」について「事業前と比べると、積極的に捉えるようになった。機会があれば協力したい。」と回答してくれた事業主等にその後フォローに行けてない圏域等があることがもったいないところではある。

体験者の保護者へのフォローについては、この事業を通じて知り合えた縁により、支援者側の各事業所において必要に応じて行っている様子。

〈今後に向けて〉

○事業目的をしっかりと意識して、セルフチェックシート等から得られる情報をどん欲に活用していくべきである！

<参考①：企画・推進委員会の実施状況>

第1回会議

◇日 時：平成26年8月21日（木） 13：30～15：30

◇場 所：山口県庁4階 共用第5会議室

体験事業について

- ・事務局より事業概要を説明

【杉山委員】

- ・子どもを先に見つけて、スタートアップセミナーで、きちんと個別の特性を受入れ側に伝えるというのは改善されたところ。
- ・やりたいという人が参加しやすい形にした方が良いのでは？公募とか？

【田原委員】

- ・昨年度の反応について、県内の企業から問い合わせはあったか？
→企業からはない。ただ、「AZUL」については、県内のあちこちの店舗等で見かけることができる。好意的に取り扱ってもらっていると解釈している。
- ・ライオンズクラブ等にも発展させて欲しい。
- ・就労支援については、他県の取組みを参考にして、いろいろと取り組むべき。ただ、就職しても自立できないこともあるのでは？ノウハウを持っているところからしっかりと学んで欲しい。

【津田委員】

- ・昨年どおり1地域2名か？
→原則は2名だが、対応できるのであればそれ以上でも構わない。
- ・昨年度の防府の体験者は、体験後、プレジョブに繋がった。そういう効果的な取組みを広げたい。
- ・体験者は、普通高校からも選んで欲しい。

【徳永委員】

- ・企業等への啓蒙は大変重要だ。この事業の成果を具体的にペーパーに落とし込んで、資料にしたらどうか？それを会議所の会報等に挟み込んで配布してもらおうという方法もある。成果を求める段階に来ている。

【岸田委員】

- ・「顔も名前も出さない」ということで、なんだか親子の身近なところに降りてきた感じ。より参加しやすいものとなったと思う。
- ・AZULは全国の友人・知人に配布した。よい評価をいただいている。カフェにも置いているが、お客様にはよく読んでもらっている。

【岩崎委員】

- ・今はまだイベント的だが、これがいずれは日常的な取組みになればいいなと思っている。

※質疑後に、事業計画を決定し、事業実施者（委託先法人）を選定。

第2回会議

◇日 時：平成27年3月26日（木） 13：30～15：00

◇場 所：山口県庁 県政資料館2階 第1会議室

体験事業について

- ・事務局より事業概要を説明

【杉山委員】

- ・今後も継続する意向ということで安心している。参加したいという声をよく聞くので、体験者の確保の方法について工夫をして欲しい。

→半年間という短期間の取り組みなので、予め体験を運営する支援者の顔見知りや特別支援学校からの推薦など、“この子なら大丈夫”と安心感が持てる子ども等に声掛けしているのが現状。なかなか公募することも難しいが、各地で体験を取り仕切っている事業所に参加希望者を紹介してもらえれば大丈夫だと思う。体験者の確保に苦労している地域もあるので。

【川間委員】

- ・何年かやって支援者側も慣れてきたら、短期の体験プログラムも実施してみてもどうか？そうすれば、入れ替わりで多くの子ども達に参加できる。
- ・学習障害の子も参加させて欲しい。

【岸田委員】

- ・今年度は子ども達の“顔も氏名も公表しない”という前提で粛々と事業を行っていたので実態があまり見えてこなかったが、9地域に拡大されて実施されたことがわかってとても良かった。

<参考②：成果の公表実績・計画>

- 2月1日開催の発達障害者支援キーパーソン研修会において、萩地域の事例紹介を行った。
- 3月25日開催の各市町の担当者会議において、事業の成果報告を行った。
- 今後、県HPにおいて成果報告書の公表を予定。